令和４年度
文部科学省委託

「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」成果報告

京　都　市　教　育　委　員　会
京都市立桃陽総合支援学校

令和3年度　成果と課題　令和4年度取組概要

令和3年度	○配信授業の情報提供により高校と病院が二者間で連携を図った。 ○定期考査を学級と同日、同時間に実施。評価に繋がった。 ○入院生徒への授業配信に関する高校の前向きな理解。
	△良好な無線環境の確保 △高校生支援継続に向けた環境整備 外部との連携 スーパーセンター機能
令和4年度取組概要	①遠隔教育実施に有効な関係機関の連携体制の構築
	ケース会議の有効性の検証、リーフレットの作成
	②遠隔教育における学習状況の確認方法及び評価
	配信授業実施高校への事後の聴き取り
	③通信環境及び授業配信機材
	KUBIロボットとテレポートアプリケーションの利用についての聴き取り
	④「心理的な安定」に関する学習支援
	学生ボランティアとのオンライン交流　高校生同士のオンライン交流

「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」概要

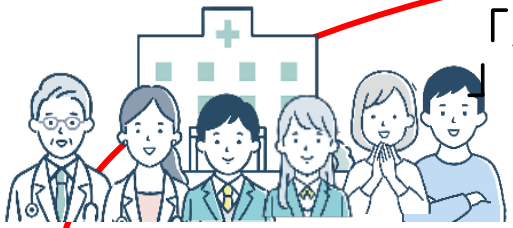
京都市教育委員会

京都市の取組

病弱特別支援学校である桃陽総合支援学校のセンター的機能（地域支援）の一環として，同校の分教室が設置されている２つの小児がん拠点病院を中心に高校生支援を行っている。同校に医教連携コーディネーター（下図）を配置し，在籍校・病院・保護者等との連携体制の構築を図りながら相談・支援を実施してきた結果，ICT機器活用のノウハウの蓄積や在籍校の病弱教育に対する理解・啓発など取組が着実に進んでいる。

「医教連携コーディネーター」によるコーディネート

「入院中は遠隔教育で学習を続けたいのですが･･･



医療関係者 ・ 高校生 ・ 保護者

連絡・相談・連携

「入院中でも学習を続けたい」

「学習継続方法について一緒に考えます。」

相談

コーディネーター

高校

連絡・相談・連携

「遠隔教育の制度や方法は？」

「遠隔教育の制度や方法，実績についてお知らせします。」

関係機関の連携をコーディネートし
入院中の高校生支援をサポートします

令和4年度　同時双方向型配信授業　支援事例

学年	入院期間等	病院	① 機材貸出	② 定期考査	③ケース カンファ	④ 教材受渡	⑤その他
①3年生（他府県私立/全日）	R2.7～R4.8	A拠点⇔市内	○	○	○		
②1年生（府立/全日）	R4.4～R4.11→自宅療養	A拠点病院	○	○	○	○	
③2年生（府立/全日）	R3.12～R4.10→自宅療養	A拠点⇔市内	○	○	○	○	
④3年生（京都私立）	R4.4～	A拠点⇔市内	○	○	○	○	オンラインでの個別実技レッスン
⑤2年生（他府県立/全日）	R3.12～R4.8→自宅療養→復学	B拠点（成人）	○	○	○	○	
⑥2年生（府立/全日）	R3.10～R4.9	市内（成人）	○	○		○	
⑦3年生（府立/全日）	R4.1～R4.6	府内	○				
⑧3年生（府立/全日）	R4.9~	A拠点⇔府内	○	○	○	○	
⑨3年生（府立/通信）	R3.5～R4.2→R4.9～	A拠点⇔他府県	○				学生ボランティアによるオンライン学習会
⑩3年生（府立/定時）	R4.10~R4.12	自宅療養	○	○	○	○	
⑪3年生（他府県私立）	R3.5~R4.3→R4.9～R4.12	B拠点	○				実技授業動画の視聴
⑫3年生（私立/通信）	R4.7～	B拠点	○				
⑬2年生（他府県立/全日）	R4.11～	B拠点	○		○		

①　病弱特別支援学校のセンター的機能の活用とコーディネーターの配置について
―　有効であった内容

○医療と高等学校の通訳的機能。
○病院との接点がない高校としてはありがたい存在。
○実践事例情報の提供から自校の実態に即した支援を検討。
○絶妙なタイミングでのケースカンファレンスの提案。
○特別支援学校の経験に基づいた高校への適切なアドバイス。
○保護者と生徒の安心、満足につながる素早い対応。
○機材の提供や病院とのやり取りの代行。
○学習計画や、症状・治療状況の共有。（保護者本人の同意取得を助言）
○退院後の治療計画や復学時の配慮事項に関する情報共有。
○配信機材の提供とサポート。

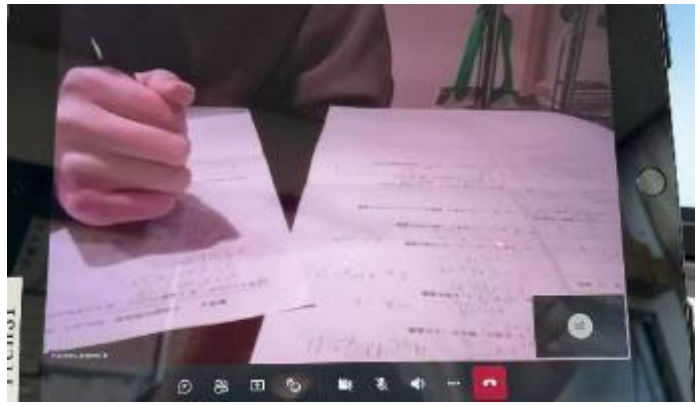
高校に出向いて機材説明

② 学習状況の把握・評価・実技教科などについて取組の様子

○実技教科
- ・レポート課題を郵送で提出。・実習場面を配信。
- ・体育の授業は毎時間参観、見学レポートを毎時間提出。
- ・ピアノ実技は双方向配信授業で個別指導。

○提出物
- ・Classiでレポート課題を出題。
- ・美術以外、Teams内にPDFで提出。評価材料として十分。

○定期考査
- ・リアルタイムで高校と病室を繋ぎ実施。（手元を映す指示）
- ・分教室設置病院では分教室教員と連携を図り実施。（Teamsで問題訂正や回答指示）
- ・在宅での実施の場合、高校から教員が訪問して実施。



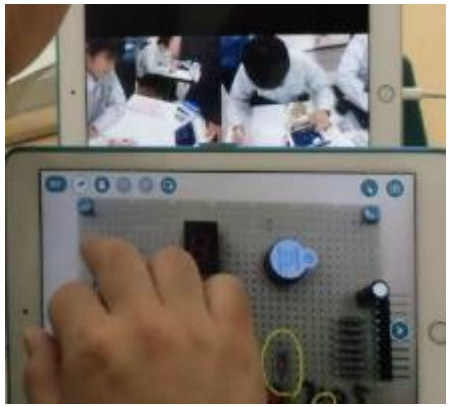
定期考査受検の様子
高校側監督画面

②　学習状況の把握・評価・実技教科などについて課題と感じたこと

▽実技教科
- 授業実施できていない実技科目（体育・情報）や実習科目について、他の成績不振者との成績の整合性
- 生徒の理解度が直接把握できない。

▽提出物
- 実技教科と合わせ、入院前の成果で見込点で対応。

▽授業時間
- 治療時間は配信授業が受けられず、対面授業と比べ、理解度が低くなり、評価が難しい。



ロイロノートクラウド版を使った電子基板の相互評価

体育の授業配信

配信でピアノの個人レッスンを受けている

③　通信環境及び授業配信機材

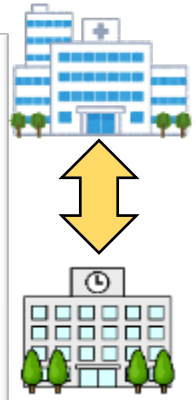
○クラスメイトは本人が教室にいるかのように配信機材に
　話しかけていた。

▽機材の提供があれば配信授業は可能だが、高校では難しい。

▽無線環境が悪く、生徒はスマホを使って対応することがあった。

▽高校側の担当教員のICTスキルに大きく左右される。

KUBIとテレポートークアプリ利用の様子

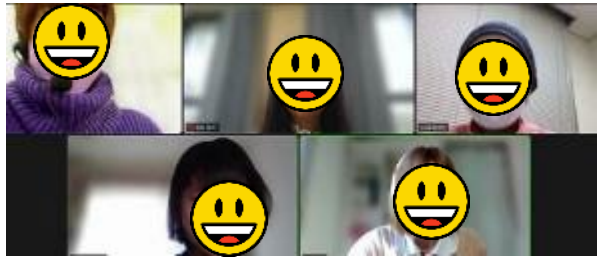


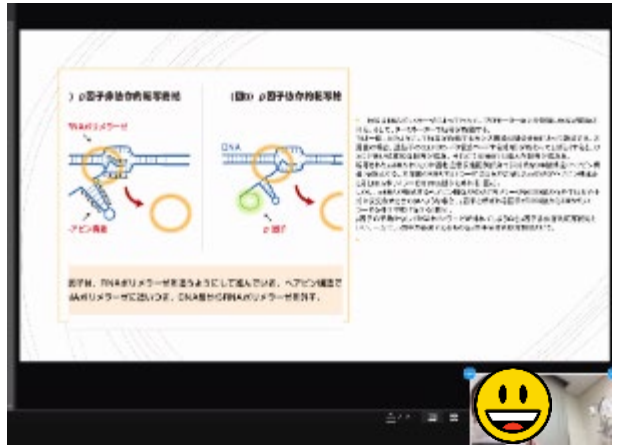
（高校生の声）「見たいところが見れる」「アバターを使うと画像が安定」「自分の姿をアバターにできることで自分の容姿を気にせずに済んだ」「声がするので振り向くと友達がいた」

④　「心理的な安定」に関する学習支援の取組
「学生ボランティアによるオンライン学習会」

入院高校生とオンラインでつながって感じたこと、考えたこと。

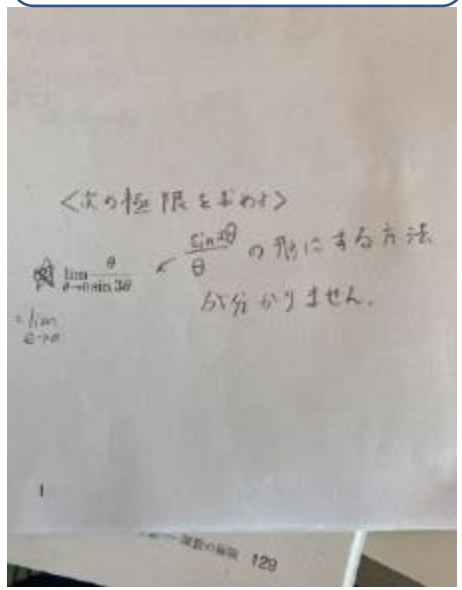
入院高校生とのコミュニケーションの中で、かつての自分が抱えていた勉強の悩みや、
大学生活への希望を、再び思い出す機会となった。
オンラインの力を借りて高校生たちの人生における人間関係が少しでも活動的になれば嬉しい。

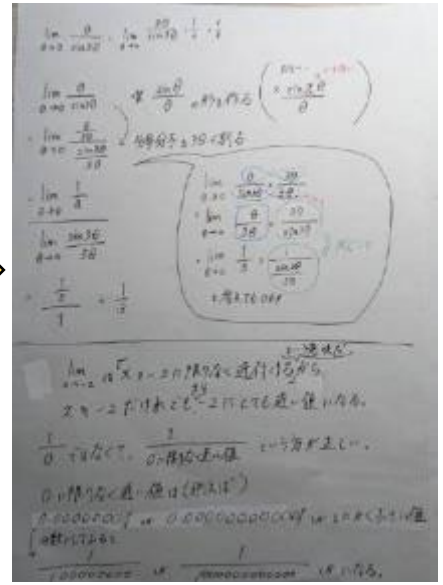




数Ⅲサポートチーム結成

次の問題がわかりません





一緒に勉強がんばろう！

移植治療が始まった高校生への応援メッセージ

育（はぐくみ）支援センター・桃陽の活動

○関係機関以外からの相談と依頼

コーディネート機能や高校生支援についての研修依頼等の増加。

・大学（教育系・医学系）　・他府県福祉行政　・病弱特別支援学校
・製薬会社ボードミーティング　・IT利活用に関する研究とセミナー

【アンケート抜粋】

・「一般的な日常を送りたい」という高校生の思いを医療者は受け取ることを忘れてはならないと強く感じた。
・学校側と病院側はそれぞれの事情を知り理解を深め合えるような場が全国において広く開かれることを願う。

○「医教連携コーディネーター会議」の開催

第１回目：全国病弱特別支援学校へ呼びかけ、開催。各校の状況を交流し、今後も継続実施を確認。
第２回目：支援開始までの流れと高校への啓発（公立・私立）
※他府県教育委員会高校教育課 入院時等学習支援担当から参加希望

成果（課題）と今後の展望

①教育と医療の連携に関する要点の発信と般化

②各高等学校の教育内容、課程に応じた学習状況の確認と評価

③ICT機器活用（機材等の配置調整、活用の専門性含む）の充実化

④「心理的な安定」に関する学習支援の継続

↓

学習意欲の持続・向上への支援の継続

- ピアサポートの有効性
- 実技教科の学習と評価のさらなる工夫
- センター的機能の一層の充実

令和４年度文部科学省委託事業
成果報告

京　都　市　教　育　委　員　会
京都市立桃陽総合支援学校